

# 磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四  
編輯兼發行人 岡田 弘成  
印刷所 石城郡平町紺屋町十四  
發行所 石城郡平町紺屋町十五  
電話 一四四  
廣告料 一行十四字 日金五拾錢  
日刊 (日曜、祭日) 休刊

## 熱狂的歡迎をうけた 中等校野球戦

### 愈々明日に迫る 各校の技術相伯仲

本社創立十五週年記念中等學校於て余り舉行された事がないの  
野球大會は地方ファンの熱狂的で一般から非なる人気を呼んで  
歡迎をうけつゝ愈々明日に迫るから當日は參觀入場者多し  
た、參加校のうち相馬中學校選考である。各中學校の様子を聞  
手は今日午後三時平着列車で、安積中學校は早くも四月  
來平、安積、田村の兩中學校選考時から猛烈な練習を開  
手は明日午前八時半平着列車開始し守備、攻撃共に素晴らしい  
で來平の管である。各校メンバ上達より將に當日の優勝候補  
！左の如く組合せは本一日午後と書はれてゐる。田村中學校は  
七時から各校選手キャプテンが中堅選手が本年三月卒業したの  
集合して抽籤により決定する管で新選手が入り交つたが、同校  
である、二日當日は午前九時では卒業生が毎日詰めて猛  
各校選手が華やかな入場式を行つた結果、昨年以上の  
ひ主催者の挨拶があり、次いで技術となり。安積中學校と共に  
會長の試合に關する注意があつて恐る可き強敵である。相馬中學校  
て試合を開始する豫定であるが、校は昨年度福島市に於ける中等  
中等學校の野球戦は石城地方に 校野球戦で活躍した選手が殆ん見  
られた事であるが、落選の原

## 全く意外極まる 佐々木氏の落選

### 團體の力は當てにならぬ

村會議員選舉は三十日行つたが  
當選者左の如し。  
▲五九木村幸雄 ▲五三鈴木與  
右衛門 ▲四七鈴木庄之助 ▲四  
六松本英作 ▲四四西郡照五郎  
▲五六新妻利平 ▲五一中野  
▲四四西山吾休 ▲五〇志  
賀伊之松 ▲五七佐藤新次郎 ▲  
四五鈴木辰之助 ▲四八志賀忠  
五郎

## 中等校野球大會參加校のメンバー

- 安積中學校 鈴木 鈴 萩 松 齋 吉 國 齋
- 田村中學校 秋 前 橋 遠 山 坂 服 神 西 橋
- 田村中學校 田 泉 川 本 藤 本 元 部 田 澤 本
- 相馬中學校 根 根 羽 齋 青 遠 新 佐 大 佐 齋 平 荒
- 磐城中學校 小 大 佐 朝 小 坂 佐 管 高 西 大 吉
- 林 平 藤 妻 林 本 野 橋 原 平 田

## 大野の木田織江氏 疑問の自殺を遂ぐ

### 銀行問題の苦勞か

石城郡大野村大字柳生百萬長者をうけその責任を苦慮しての結  
元縣會議員木田織江(五七)氏は果ではないかと噂されてゐる。  
卅一日午前六時頃木田御殿と稱尚ほ同氏は一昨年愛妻を失ひ目  
以て絶死を遂げてゐるのを程程してゐたものである。  
家人が發見急報により四倉署よ  
り松本署長に出張検視をなした  
が、同氏は本縣屈指の大富豪と  
し、また地方名望家として廣く  
知られてゐただけに突然の死は  
各方面に影響あるものと見られ  
て居る、原因については種々取  
沙汰されてゐるが、同氏は平町  
警署銀行重役で同行が昨年五月  
二十一日休業以來種々同行の  
復活開業について盡力したが未  
だに開業の運びに至らずこれが  
ため精神的に或は經濟的に打撃

## 撞球大會

平町で  
平町町マルト撞球場では六月  
七日から三日間縣下撞球大會を  
開催する管で會費金二圓(權利  
は全部に繋ぎ放せしめない  
方法を取つて極力傳染病の豫防  
に勉めてゐるため現在では概し  
衛生状態は良好であるが検査  
の結果既に收容した数は十三頭  
に達したこれは衛生状態の劣悪  
な馬であるが中には相當注意を  
要する馬もある由である。

## 大阪市議戦の 一現象

### 大阪榎本紀一

初めると堪らないほど悪い處  
が眼につくものである。体を  
テールと直角にして上向き  
になつた彼女は、危なかつし  
いゆりのない暗誦スピーチ  
をこゝを先途とばかりにやり  
初める。顔面、神経はこわば  
つてまかり違へば男を犠牲に  
しめるに充分な可能性をもつ  
かも知れない、兩眼も哀れ氣  
の毒にや行儀よくすわつてゐ  
る。落つてゐる様だがその  
くせ本人は何も見えはしない  
のだ。日頃は優にやさしき彼  
女の聲も甲高く何時までたつ  
ても一向調子は變らない。温  
しき女性たる事に我慢して聞  
いてゐると後頭がジャンジ  
ヤン痛んでくる。せめて彼女  
は哲學者でもあるかと思へば  
仲々もつてノンセンスのもの  
のである。御主人が御買物を  
なさる時は奥様の御意見を  
聞いてから入れるもので御座  
います。なんて千慮の一得場  
當りなストライトも出るのだ  
がファンは一向喝采しない。  
可愛そうにグラウンドを固守  
する無投接手のそののやう、  
これでもボール並かどうらめ  
しそうな顔色をする、然し勇  
敢にも數百の聴衆を向ふに廻  
して壇上に立ち給ふわが愛す  
べき婦人辯士の君の中には、  
ひよつとしたら太陽の黒点の  
やう、すばらしい思想家があ  
るかも知れないのである。温  
た夜は、また與借して睡られ  
ないことだらうと思はれる。  
現に角わが愛すべき婦人の君  
を女辯士に頼むなんて考へ物  
ではあるまいか。

▲第五圓  
▲殊勳 一等十圓、二等七圓  
▲大旦那賞 一等十圓、二等七圓

▲馬貧血病検査 石城  
産馬組合ではいよく馬の傳染  
病殊に恐れられる貧血病流行期  
に入るのを過般から技術員を派  
驚いた!!!  
こうまで安いとは  
平・加納活版所の印刷物

# 四倉町議選舉 無競争で終る

四倉町會議員改選は三十日執行されたが、最初候補者は定員十八名に對し一名超過の十九名であつたが過般候補者新妻盛氏が町長に就任したため無競争となり左の得票で全部當選した結果を見て興味あるは四倉電氣會社の中野捨與氏が僅か三十六票の少数で最下位の當選者となつた事であるが、四倉電氣株式會社からは最初新妻盛氏と中野捨與氏と二名が名乗りをあげてゐた處新妻氏が退いたのであるからその投票の大部分が中野氏に廻れば中野氏は最高位の得票を見ねばならぬ筈であるのに、中野氏は老翁で會社内部の人々でさへ信用してゐる人が少なく、現んや外部では無能者として排斥こそすれ心服する者が少ない爲信用ある新妻氏の聲がかりも中野氏には何等効なくこの不結果を招來するに至つたものである

三六票 中野捨與  
三二票 横田富彌

## 炭礦雜夫 感電即死

磐崎村大字藤原三井炭礦雜夫古泉政義(三〇)は二十八日午前零時五分頃坑内で作業中二百二十ボルト電動鑿炭機の高壓線に觸れ感電即死した。

## 三十一日替り 三大巨篇

マキノ青年派特作  
主役？兜頭布？

## 月下の騎士

異聞  
マキノ登六、マキノ深、實川芳雁、マキノ久夫

帝キネ現代小唄映畫  
日米親善改題

## 鈴蘭の唄

藤岡林太郎、高津愛子主演  
説明 月岡 一骨

大帝キネ特作渡邊新太郎監督  
松本三郎大猛演

奇聞  
金子春太郎  
前後全部上映  
説明 白原春華、鈴木一華

料金普通  
有聲座

山林で  
丁半賭博

湯本町傾城増田惣太郎(四〇)外  
五名は三十一日午後三時同字火  
葬場附近山林で丁半賭博開帳中  
平署に捕はる。

# 當選御禮

平町會議員改選に際し各位の御同情により當選仕候段感謝に不堪譽儀ながら紙上を以て御厚禮申上候

萩原義雄  
吉田寅之輔  
吉村安治郎  
吉田元五平  
武田富助  
永山滿藏  
野崎元吉  
柳下雅治  
馬目淺次郎  
荒川井清  
櫻井次郎  
佐藤岩次郎

## ユラノスケ粕取焼酎發賣

二合白瓶二十五錢(空瓶交換仕候)

平町四丁目平驛通り

永山酒造店總發賣元

電話二〇七番

營業種目 石炭、コークス、玉炭

磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル

◎磐城炭礦ノ最上石炭

◎正味十貫目入 壹俵 金六十五錢

◎日本第一番評判ノ良イ東京瓦斯コークス

◎コークス 壹俵 金壹圓參拾錢

◎木炭ノ三倍御徳用ナリノ玉炭

玉炭 大箱壹箱 金貳圓

▼配達ハ一俵ヨリイタシマス

平驛前

電話三三七

阿部石炭商店

# 第二回中等學校野球大會

期日 六月二日午前九時より

場所 磐城中等學校球場

本年參加校

磐城中學 相馬中學  
安積中學 田村中學

一、抽籤 六月一日午後七時

一、試合法 トーナメント

一、優勝賞 本社優勝旗贈呈

一、試合球 アメリカンボール(大塚運動具店寄贈)

一、ホームラン打者 ノーバウンドホームラン打者へ  
丸山組丸山喜一郎、加納外一兩氏寄贈  
銀側腕巻時計一個を呈す

一、三壘打者 神戸丸善運動具部寄贈賞品進呈

一、審判 水戸運輸事務所柏原廣、後藤憲迪兩氏

## 主催 磐城時報社

會長 唐土齊治  
副會長 加藤丈夫

同 阿部政右衛門  
總務 佐藤作平

幹事 大塚風三郎、石坂一男、安部富八  
織田安次郎、小野五郎、國井孝親

石川友次郎、水野忠護、豊口欽哉  
鯨岡益之助、大村隆、高田亥三二

織田榮二郎、鈴木武雄、水野峯雄